

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-224901

(43)公開日 平成9年(1997)9月2日

(51)Int.Cl.⁶

A 4 7 L 25/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 4 7 L 25/00

技術表示箇所

B

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平8-36757

(22)出願日 平成8年(1996)2月23日

(71)出願人 391027424

株式会社フクヨー

愛媛県新居浜市萩生2960番地の5

(72)発明者 武田 慎一

愛媛県伊予三島市朝日3丁目4-30

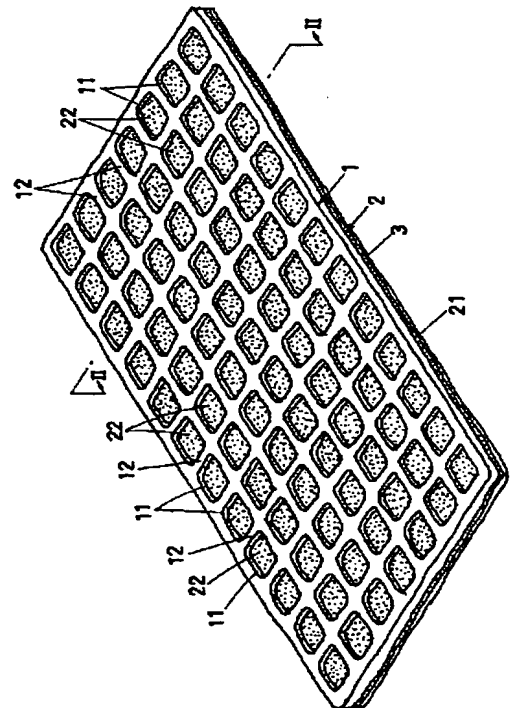
(74)代理人 弁理士 大浜 博

(54)【発明の名称】 清掃用物品

(57)【要約】

【課題】 従来から使用されている雑巾のような清掃用物品では、ホコリや微細にゴミは捕集できるものの、比較的大きなあるいは重量のあるゴミまでは捕集することができなかった。

【解決手段】 薄板状の柔軟材料からなる清掃基材1に多数の穴11や多数の凹部11Aを形成して、その穴11や凹部11A内に粘着材2を臨ませるようにし、もってホコリや微細にゴミは清掃基材1部分で捕集するとともに、比較的大きなあるいは重量のあるゴミは粘着材2に接着させて保持させ得るようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 表裏各面に貫通する多数の穴(11, 11...)を形成し且つ薄板状の柔軟材料からなる清掃基材(1)の片面に、ゴミを接着させ得る粘着材(2)を接合させたことを特徴とする清掃用物品。

【請求項2】 下面側に多数の凹部(11A, 11A...)を形成し且つ板状の柔軟材料からなる清掃基材(1)の前記凹部(11A, 11A...)内に、ゴミを接着させ得る粘着材(2)を、前記凹部(11A)の開口に達しない範囲で充填したことを特徴とする清掃用物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本願発明は、主として床面上のゴミやホコリを払拭するための清掃用物品に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、掃除用具として、繊維材料を基本とする数多く清掃用物品が市販されている。例えば、不織布又は織物等の材料からなる湿式又は乾式の雑巾や、あるいはそれに油状物質を含浸させたもの等がある。これらの清掃用物品は、目的によって使い分けられ、それぞれ被清掃面のゴミやホコリ、あるいは汚れを拭き取る機能を有する。又、従来の清掃用物品の中には、不織布を起毛させたものや、不織布を何層かに重合させたもの等もある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述した清掃用物品は、次のような問題を有している。即ち、従来の不織布・織物等からなる清掃用物品では、細繊維自体にゴミを付着させるかあるいは該細繊維間の隙間にゴミを絡ますかによって、ゴミを保持するようにしたものであるから、ゴミの重量・大きさ・形状によっては保持できずに落下することがある。従って、ホコリ程度の微細なものは保持できても少し大きなゴミや重量のあるゴミまではきれいに払拭できないという問題があった。

【0004】本願発明は、このような問題に鑑み、ホコリのような微細なものばかりでなく、少し大きなゴミや重量のあるゴミでもきれいに捕集することができるようにした清掃用物品を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】本願発明は、上記課題を解決するための手段として、次の構成を有している。

【0006】本願請求項1の発明

本願請求項1の清掃用物品は、表裏各面に貫通する多数の穴を形成した清掃基材の片面に、ゴミを接着させる粘着材を接合させている。

【0007】清掃基材は、例えば雑巾として使用し得る程度の適宜の面積を有した薄板状に形成している。又、この清掃基材の材料としては、不織布や織物等の柔軟性

のあるものが採用される。清掃基材の各穴は、例えば清掃基材を格子状あるいは網目状に成形することによって適宜の形状に配列した状態で形成できる。又、この各穴の大きさは、適宜に設定できるが、例えば1~2cm²程度が適当である。尚、この穴の大きさは、用途に応じて適宜に設計変更できる。又、この清掃基材では、穴の残りの部分が、清掃面に接触する突起部となる。この突起部は、弾性を有しており、上面側を押圧すると自由に撓むようになっている。さらに、この突起部の表面は、起毛状態となっている。

【0008】粘着材としては、ホットメルトあるいは粘着テープが使用可能である。そして、この粘着材は、清掃基材の片面に、各穴から臨ませた状態で接合させている。尚、粘着材としてホットメルトを使用した場合には、該ホットメルトの一部を各穴の開口に達しない範囲で該穴内に充填させることもできる。又、粘着材が清掃基材の片面に剥き出しになる場合には、該剥き出し部分を被覆シートで覆うようにするとよい。

【0009】本願請求項2の発明

本願請求項2の清掃用物品は、下面側に多数の凹部を形成した清掃基材の前記凹部内に、ゴミを接着させる粘着材を充填している。

【0010】清掃基材は、請求項1の場合と同様に、例えば雑巾として使用し得る程度の適宜の面積を有した薄板状に形成し、又、該清掃基材の材料としては、不織布や織物等の柔軟性のあるものが採用される。又、この請求項2では、清掃基材に形成された各凹部は、底面があってもよい。

【0011】この請求項2の場合は、粘着材としてホットメルトのような粘状質のものが適当である。この粘着材は、各凹部内に該凹部の開口に達しない範囲で充填されている。

【0012】本願の各発明の清掃用物品では、清掃基材の下面側で被清掃面を拭くようにして使用される。そして、被清掃面上のホコリや微細なゴミは、清掃用物品で軽く拭くことで清掃基材の突起部に付着させることができ、又、紙片・パン屑・毛髪・砂等の比較的大きなゴミがある場合には、清掃用物品の上面を少し強く押圧しながら拭くことで、清掃基材の突起部が撓み、粘着材がゴミに接触して該ゴミを接着させることができるようになる。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、図1~図4を参照して本願発明の実施形態を説明すると、図1~図3には本願の第1実施形態の清掃用物品が示され、又、図4には同第2実施形態の清掃用物品が示されている。尚、図1~図3の第1実施形態は請求項1に対応し、図4の第2実施形態は請求項2に対応するものである。

【0014】図1~図3に示す第1実施形態の清掃用物品は、表裏各面に貫通する多数の穴11, 11...を形

成した清掃基材1の片面に、ホットメルトのような粘状質の粘着材2が接合されている。尚、図1は、清掃用物品を使用するときの下面側を上に向けた状態を表示しており、又、図2は、図1のII-II断面を裏返しにして表示したものである。

【0015】清掃基材1の材料としては、パルプ系спанレース不織布、ポリオレフィン系不織布、ポリエステル系спанレース不織布等が使用されている。尚、他の実施形態では、清掃基材1として織物を使用してもよい。この清掃基材1は、適度の柔軟性を有している。又、この清掃基材1の大きさ・厚さは、使用目的に応じて適宜に設定できるが、例えば縦横長さが150mm×300mm、厚さが3～10mm程度のものを形成できる。

【0016】清掃基材1に形成した穴11、11・・・は、図示例では格子状に配列させている。この各穴11の大きさは、適宜に設定できるが、例えば1つが1～2cm²程度の大きさにすることができる。尚、各穴11、11・・・は、網目状あるいはその他の形状に配列してもよい。

【0017】清掃基材1における穴11の残りの部分（格子状部分）は、突起部12、12・・・となっている。該突起部12部分は、使用時に被清掃面に接触する部分である。この突起部12、12・・・は、可撓性を有しており、清掃用物品の上面を上から押圧すると自由に撓むようになっている。又、この突起部12、12・・・の表面は起毛状態となっている。

【0018】粘着材2としては、この実施形態ではホットメルトのような粘状質のものが使用されている。この粘着材2は、清掃基材1の片面全面に塗布しており、該粘着材2の一部（符号22で示す充填部）が各穴11、11・・・内の所定深さまで充填されている。尚、粘着材2の充填部22、22・・・は、清掃基材1に形成されている穴11の開口に達しない範囲（例えば開口から2～3mm程度だけ奥側に位置する範囲）で充填されている。又、粘着材2は、清掃基材1の上面全面に例えば1mm程度の厚さだけ盛り上げている（盛り上げ部21）。この盛り上げ部21は、剥離自在な被覆シート3で被覆されている。

【0019】この第1実施形態の清掃用物品を使用する場合は、図2に示すように、清掃基材1の反粘着材側で被清掃面Fを拭くようにする。そのとき、ホコリや微細なゴミBは、清掃基材1の下面で拭き取られて突起部12、12・・・に付着・保持される。又、紙切れ・パン屑・毛髪・針・紐・砂等の比較的大きくあるいは重量のあるゴミAがある場合には、清掃用物品の上面を少し強く押圧することにより、清掃基材1の突起部12、12・・・を撓ませて穴11、11・・・内の粘着材充填部22、

22・・・をゴミAに接触させることができ、それによって大形あるいは重量のあるゴミでも捕集することができる。又、この清掃用物品は柔軟性を有しているため、被清掃面に良好にフィットするようになる。

【0020】又、この清掃用物品は、例えば図3に示すように、柄41付きの掃除道具4に装着して使用することもできる。この場合は、清掃用物品上面の被覆シート3を剥がし、粘着材2の剥き出し部21を掃除道具4の取付台42の下面に接着させて使用することができる。

【0021】図4に示す第2実施形態の清掃用物品は、清掃基材1の上面側に平面部13が形成されており、該清掃基材1の下面側からは上方に凹入する多数の底付きの凹部11A、11A・・・が形成されている。尚、この第2実施形態の各凹部11A、11A・・・は、図1の穴11と同様に格子状に多数配列させている。そして、各凹部11A、11A・・・内には、それぞれホットメルトのような粘状質の粘着材2が所定量づつ充填されている。この粘着材充填部22、22・・・の量は、凹部11の開口に達しない範囲の量である。尚、この第2実施形態では、第1実施形態の被覆シート3が不要である。又、図4に示す第2実施形態の清掃用物品も、第1実施形態のものとはほぼ同様に使用できる。

【0022】尚、この各実施形態の清掃用物品は、汚れがひどくなる（多量のゴミを保持する）と使い捨てればよい。

【0023】

【発明の効果】上記のように、本願各発明の清掃用物品では、下面側に清掃基材1の突起部12、12・・・があり、各穴11、11・・・又は凹部11A、11A・・・内に粘着材2（充填部22）があるので、ホコリや微細なゴミB（図2）は清掃基材1の突起部12で捕集できるとともに、比較的大きくあるいは重量のあるゴミAは、粘着材2で接着することができるので、単一のもので各種のゴミを捕集することができ、清掃効率が良好となるという効果がある。又、清掃基材1と粘着材2とで構成されたものであるから、比較的安価に製作できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願発明の第1実施形態にかかる清掃用物品の下面側を上にした状態の斜視図である。

【図2】図1のII-II拡大断面図である。

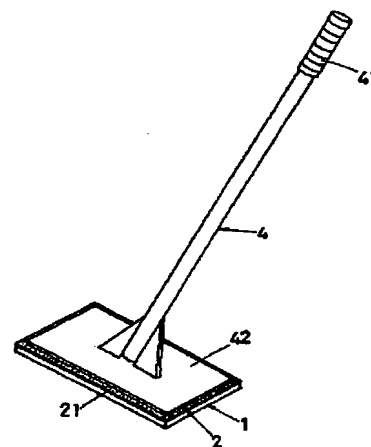
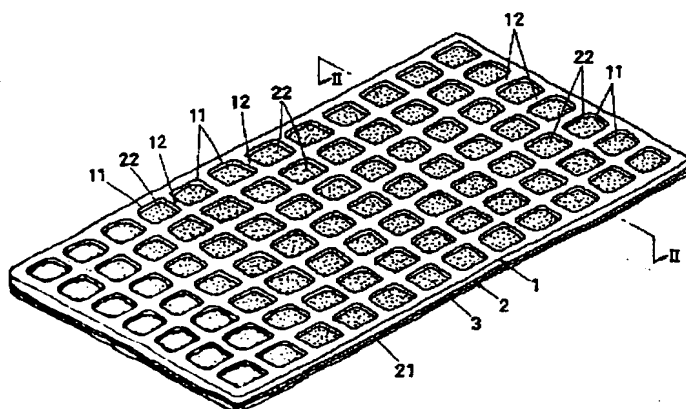
【図3】図1の清掃用物品の他の使用例を示す斜視図である。

【図4】本願発明の第2実施形態にかかる清掃用物品の図2相当図である。

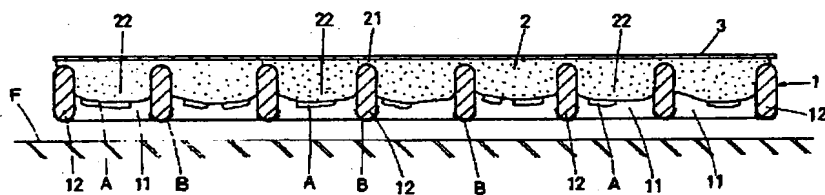
【符号の説明】

1は清掃基材、2は粘着材、3は被覆シート、11は穴、12は突起部、22は充填部である。

【図3】



【図2】



【図4】

